



歯科国試
パーフェクトマスター

口腔外科学 I

篠塚啓二・外木守雄 著

第2版

令和5年版 歯科医師国家試験出題基準 対応



歯科医師国家試験

合格に

この1冊!



医歯薬出版株式会社

Check Point

- ・顔面の正常発生と口唇裂・口蓋裂との関連を説明できる。
- ・口唇裂・口蓋裂の臨床症状、治療などを説明できる。

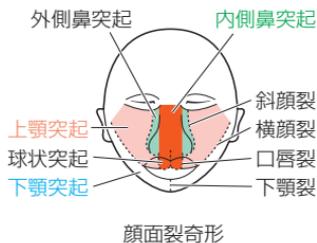
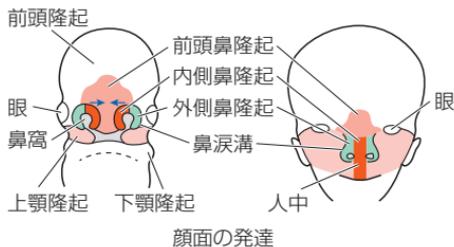
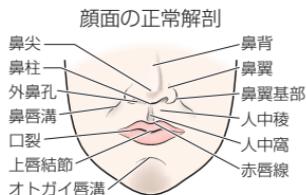
※『歯科国試パーフェクトマスター口腔組織・発生学』Chapter 15も参照すること。

I. 顔面・口腔の発生と先天異常

- ・口唇は胎生期第4～7週に形成される
 - ・口蓋は胎生期第7～12週に形成される
- ）口唇裂・口蓋裂はこの経過中にさまざまな要因で起こる

裂奇形の発生部位と要因

種類	癒合不全部位
横顔裂	上顎突起と下顎突起
斜顔裂	内外側鼻突起と上顎突起
片側上唇裂	上顎突起と内側鼻突起
正中上唇裂	左右の内側鼻突起
下唇裂	左右の下顎突起
口蓋裂	口蓋突起(上顎突起の一部)
軟口蓋裂	左右の上顎突起
顎裂	内側鼻突起(球状突起)と上顎突起



顎変形症

Check Point

- ・顎変形症の診断と治療法について説明できる。

※『歯科国試パーフェクトマスター歯科矯正学』Chapter 14も参照すること。

I. 総論

顎変形症とは、種々の原因により顎骨の形態や位置、顎間関係に異常を生じ、口腔や顎顔面の機能障害や審美障害をきたした状態。

1) 症状

- ・咬合異常
- ・顎関節障害
- ・咀嚼障害
- ・発音障害
- ・呼吸機能障害
- ・審美障害

2) 診断

- ・顔貌の写真、計測
- ・顎態模型の製作
- ・頭部エックス線規格写真(側面, 正面)
- ・ポリゴン表
- ・プロフィールグラム
- ・CTを用いた3次元的な顎態分析法

3) 骨格の異常による分類

- ・上顎前突症
- ・上顎後退症
- ・下顎前突症：三日月様顔貌 (dish face)。東洋人に多い。
- ・下顎後退症：小下顎〔鳥貌 (bird face)〕。関節円板前方転位が起こりやすく、顎関節症状が多い (PCR も多い) (Chapter 4 p.74 参照)。
- ・顔面非対称

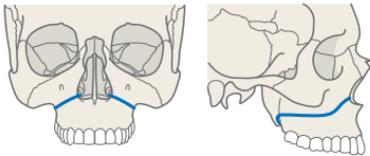
4) 咬合状態による分類

- ・反対咬合
- ・過蓋咬合
- ・切端咬合
- ・交叉咬合
- ・空隙歯列
- ・開咬
- ・叢生

II. 顎変形症の治療

歯列矯正治療の範囲を超えた顎変形症で、原則として成長がほぼ終了した時期以降に施行する。

A 上顎の手術

手術法	特徴
<p>1) Le Fort I型骨切り術</p>  <p>(最新口腔外科学 第5版. より)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上顎の骨切り術で最も一般的に行われている方法。 ・上顎を下鼻甲介の下の高さで骨切りを行い、梨状孔、上顎洞前壁、翼口蓋窩を通り蝶形骨翼状突起に至るまでを切断し、上顎骨体を可動化する。 ・適応が広く、上顎を前方、側方に移動させることが可能。 <p>【適応】 上顎前突症、上顎後退症、上顎非対称、上顎の垂直的咬合高径の異常。</p>

顎関節疾患

Check Point

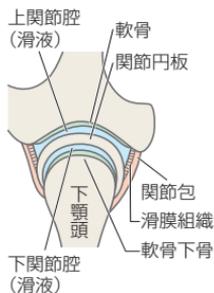
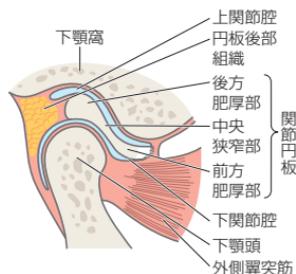
- ・顎関節の構造を説明できる。
- ・顎関節に関する疾患の病態，臨床症状，検査を説明できる。

I. 総論

A 顎関節の構造



顎関節とその周囲靭帯

顎関節の構成組織
(前頭断)顎関節の構成組織(矢状断)
(口腔外科学, 第4版. より)

CHECK!

顎関節の血管と支配神経

栄養動脈：浅側頭動脈，顎動脈
支配神経：耳介側頭神経(関節包周囲などの感覚を支配)，咬筋神経(咬筋に分布して運動を支配)，後深側頭神経(側頭筋に分布して運動を支配)



コラム：顎関節の機能

顎関節部の円板後方部軟組織には豊富な血管網が分布し，静脈叢が発達している。開口時にこの部位が伸展し，閉口時には収縮することにより血流が生じる。すなわち，顎関節は血液ポンプの役割がある。顎運動の重要性が理解できる。

損傷

Check Point

- ・創傷病態と治癒について説明できる。
- ・軟組織損傷の治療の手順について説明できる。
- ・顎顔面骨骨折の種々の特徴，治療法について説明できる。

I. 創傷 よくでる

A 創傷治癒(キズの治り方)

1) 分類

(1) 一次治癒

- ・鋭利に切断された創傷が無菌的に縫合された場合の治癒経過。
- ・創面に血腫などの異物がなく，かつ感染がないことが条件となる。

